

令和8年度 学会賞の選考結果について

証券経済学会選考委員会

1 応募状況

応募点数1点（著書1点）

2 選考結果

証券経済学会賞（図書部門） 受賞1点

加藤政仁著「証券アナリストの市場機能—株価形成と企業ガバナンスの影響」(中央経済社)

2026年3月発行

3 講評

選考に当たっては、以下の基準で審査を行った。

- ・学術書としての要件を満たしているか
- ・研究内容にオリジナリティがあるか
- ・問題意識、分析枠組みが明確で、著書としての完成度が高いか
- ・先行研究を十分に消化しているか
- ・証券経済学会のテーマとして相応しいか

本書は上記の基準をすべて満たしており、委員会では全会一致により、学会賞を授与するにふさわしい学術書との結論に至った。

本書が研究対象とする証券アナリストは、資本市場における適切な価格形成やコーポレートガバナンスを支える上で重要な役割を期待されている。しかしながら、現時点において、海外と比較して日本における実証分析は非常に少ない状況である。その中で、本書は、体系的に株式流通市場・発行市場両面におけるアナリストの機能を、丁寧な先行研究の精査に基づいて、データ分析によって明らかにするオリジナリティの高い研究である。各章での問題設定(情報生産・信頼性・監視機能等)は具体的で明確になされている。研究内容においては、スタンダードな計量経済学手法に依拠して、アナリストカバレッジやレーティングへの手堅い計量的な実証分析を行っている。その結果、アナリストが企業と投資家間の情報を媒介することで、情報非対称性を緩和し価格形成に影響する効果やその専門性に由来する監視機能などについて、市場構造の観点から新たな知見を導き出している。これらは、研究面だけでなく、金融機関や規制当局にとって実務面での多くの示唆に富む。他方で、一部に、分析手法の高度化の余地や海外市場との直接的な比較の必要性などの指摘があったが、それらについては、今後の研究発展を期待したい。